

2023年1月17日

HOBIA NEWS No.387

- HOBIA 理事長 新年挨拶
- 地域バイオ育成講座（旭川）開催のご案内
- 2023 HOBIA 第133回冬期例会 開催のご案内

● HOBIA 理事長 新年挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

毎年、年頭あいさつの原稿を書く時期になると、昨年のどの様な事が起こったかを思い起こします。昨年は、やはり新型コロナウイルス感染症とロシアのウクライナ侵攻に関する報道が毎日の様になされていたとの印象です。勿論、この二つの出来事に直接の因果関係は無いのですが、現代社会では、世界の一地域で起こった問題の影響は、瞬く間に世界中に広がり、様々な形の悪影響を齎す事を改めて認識しました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが、2019年末の武漢市での第1例目の感染者の報告から3年経った今でも、世界的なパンデミック収束の見通しが立たず、現在、我が国では、新型コロナウイルス感染症の感染者数の8回目の感染流行の“波”の中にあることには、驚きを感じます。更には新型コロナ禍が、病気として人々の健康や命への直接の脅威となることに留まらず、我が国におけるワクチンを含む医薬品の開発や供給体制の弱さや、世界に誇って来た保健医療制の脆弱性を露わにする過程を目の当たりにしました。また、グローバルな人の移動・交流が盛んな現代では、“スペイン風邪”の時代に比べ、広域での感染症の拡散を制御することは極めて難しいこと。パンデミックの発生は、世界的なレベルの経済活動に大きな打撃を与えることを実感した一年でした。今回のパンデミックにおいて何を教訓とし、今後の新たな感染症の流行の対策にどの様に役立てるかを、様々な人が、多面的に検討する必要性を強く感じます。

もう一つ、世界に大きなインパクトをもたらした出来事は、ロシアのウクライナ侵攻です。戦争による直接の人命の損失には嫌悪と戦慄を覚えます。これに加えて、この戦争は、世界の食糧供給やエネルギー供給は簡単に滞るリスクがあること、その影響は戦争当事国に留まらず、特に発展途上国に大きな被害をもたらすことが明らかにしました。

戦争が無くても、温暖化などの地球環境問題や昨年11月に80億人を超えたとされる人口増加により、これまでの資源利用や食物生産法では、既に地球のキャパシティーを超えているとも言われてはいますが、今回の戦争によって、エネルギーや食糧の不足が齎す災禍に対する不安をリアルに感じました。このことにより、昨年末カナダのモントリオールで開催されたCOP15でも話題となった“消費のグローバルフットプリント削減”、即ち、食料の過剰消費や廃棄の大幅な削減の重要性にも改めて気付かされました。

日本における重要な食糧供給拠点である北海道においても、コロナ感染症による学校、レストランなどの休止や休業による牛乳需要の減少により、不本意な牛乳の廃棄を行わなければならない酪農家が居られたことには、心が痛みます。

令和5年がこの様な様々な世界規模の問題解決に向けて、北海道で何が出来るのかを皆様と共に考える年となることを期待しております。

特定非営利活動法人北海道バイオ産業振興協会
理事長 北野邦尋

● 地域バイオ育成講座（旭川）開催のご案内

日時：2023年1月30日（月） 15:00～17:00

場所：アートホテル旭川 4F BIZルーム（旭川市7条通6丁目）

講師：北海道大学大学院農学研究院 准教授 比良 徹氏

申込：会場で受講 or YouTube 配信希望を選んで（○づけ）下記でお申込み下さい。

[【旭川】5.1.30 高タンパクチラシ](#)

● 2023 HOBIA 第133回冬期例会 開催のご案内

開催日：2023年2月3日（金）14:00～17:00

会場：北海道大学 学術交流会館 小講堂（札幌市北区北8条西5丁目）

参加費：無料

理事長挨拶 14:00～14:05

【講演1】 14:05～15:20

『農業試験研究の最近と今後について』

地独)道総研機構 農業研究本部長 中央農業試験場長 古原 洋氏

<講演要旨>

道総研は2010年に、農業試験場、工業試験場などの22の道立試験研究機関統合され設立した地方独立行政法人。

1次産業の農水林はもとより、食品加工から自然環境保全、地震・津波など防災の研究も守備範囲としている。

このうち、農業に関する最近の成果を紹介する。そして、資材高騰など農業を取り巻く情勢の変化を踏まえ、今後の農業試験研究についての方向性を述べる。

（休憩）15:20～15:30

【講演2】 15:30～16:50

『赤インゲンマメ「きたロツソ」の調理加工特性と収穫時期の影響』

名寄市立大学 副学長 栄養学科 教授 加藤 淳氏

<講演要旨>

これまで、サラダやスープなどの洋風料理においては、海外産の赤インゲンマメが使用されてきたが、実需者からは国産原料が求められていた。そこで、道総研+勝農業試験場が2017年に国内初となる洋風料理に 適した赤インゲンマメ新品種「きたロツソ」を開発し、2020年度から一般栽培が開始された。そこで、収量性と品質を両立できる栽培条件を検討するとともに、収穫時期が本品種の調理加工適性に及ぼす影響について検討したので、その結果について紹介する。

【参加申込:HOBIAホームページ [メールお問い合わせフォーム](#) からお申込ください。】

HOBIAのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボほっかいどう内